

「世界のリーダーとなる歯科技工士を育成する」



口腔保健学科長
品田佳世子教授



口腔保健再建工学講座
鈴木哲也教授



口腔保健機材工学講座
高橋英和教授



口腔保健基礎工学講座
杉本久美子教授

2011年4月、歯学部口腔保健学科は、新たに4年制の口腔保健工学専攻が加わり、口腔保健衛生学専攻と2専攻となった。

口腔の健康・維持のため、医療分野と工学分野の知識と技術を併せ持つ歯科技工士など、高度な歯科医療技術者を育成する。全国で2校目となる4年制歯科技工士教育機関の設立に、学内外からの期待も大きい。

近年のインプラントやCAD/CAMに代表される歯科医療技術の進歩は目覚ましい。高い審美性が求められるなど歯科技工士への要求は高度化・多様化している。

口腔保健工学専攻では、歯科技工士だけでなく、歯科関連企業での開発を行う技術者や研究者、教育者として活躍する人材はもちろんのこと、国際感覚と国際競争力に優れた、アジアのリーダーとなり得る人材の育成も視野に入れている。鈴木哲也教授は設立の背景を語る。

「従来の専門学校教育では生理学や人体の仕組みなど基礎医学の知識の習得や、実習による技術の習得に限界がありました。このままでは、口腔から全身の疾患に関連する新たな歯科医療の分野を、歯科技工士の立場から切り開くことは困難でしょう」

口腔保健工学専攻の1年次は、全学共通の教養部で医学部、歯学部の学生たちとともに学びつつ、専門基礎分野で、コミュニケーション論を学ぶなど、将来のチーム医療を見据えた基礎固めを行う。2年次、3年次は、CAD/CAM、システム工学、情報歯科医療工学、口腔リハビリテーション工学などの幅広い専門分野を習得。4年次の再建工学包括臨床実習で実際の補綴物を製作するという流れになっている。

「教養部での1年間は、基礎的な知識を基に科学的な思考力を身に付ける大切な時期だと考えています。その

後の専門分野でも、将来同じ歯科の分野で働くことになる歯科衛生士と歯科技工士が学生の頃から一緒に学べるよう、口腔保健衛生学専攻と合同で学ぶ科目も検討しています」(品田教授)

現在の1期生が卒業する4年後までに大学院を設置する計画もある。いずれは専門技術ごとに学べるコースを設け、修了者には認定証を与えるなど、歯科技工士の地位向上につながる仕組みも作っていきたい考えだ。

「口腔保健工学専攻をきっかけに、研究マインドを持った歯科技工士が増えれば、歯科技工士の求められる分野も増えてくると考えています。海外では日本人技工士も多数活躍しており、技術力は高く評価されているのです。将来の卒業生の活躍できる場はますます広がるはずです」(杉本教授)

「東京医科歯科大学では、タイのチュラロンコン大学などをはじめ、アジア地域の多数の歯科大学と交流しています。これらの海外交流を活用して、将来はアジアの国々と協力して歯科技工士の拠点となるように頑張りたいと思います」(高橋教授)。そのときの口腔保健工学専攻の貢献は大きなものとなるだろう。



口腔保健工学専攻で学ぶ羽田多麻木さん(1年)。「入学してまだ半年程度ですが、早期体験臨床実習で病院見学をさせてもらったことで歯科技工士という仕事への意識は大きく変わりました。歯科技工士は1人で行う仕事だと思っていましたが、歯科医師や歯科衛生士の方と一緒に働くチーム医療であることが分かりました」と語る。